

## 最近の国内貨物輸送の動向について

－特に平成18年度国内貨物輸送の特徴－

### 概要

- 国内総貨物輸送トン数は、減少傾向が続いており、平成18年度も0.3%減と7年連続の減少。一方、国内貨物輸送トンキロは増加傾向で、18年度も1.4%増と3年連続の増加。貨物輸送の長距離化が一層進んでいる。
- 国内貨物輸送の輸送機関分担率は、トン数・トンキロとも、内航海運のシェア縮小、自動車のシェア拡大の傾向が18年度も続いている。自動車の中でも、営業用自動車のシェア拡大が顕著で、自家用自動車から営業用自動車へのシフトが続いている。
- 営業用自動車が増加、自家用自動車が増減という傾向は続いているが、18年度の自家用自動車は、トン数は減少したものの、平均輸送距離の長距離化によってトンキロが10年振りに微増した。
- 内航海運は、減少傾向が続いており、18年度も、貨物船、油送船ともトン数、トンキロのいずれも減少した。
- 鉄道貨物は、コンテナ貨物の増加、車扱い貨物の減少という傾向が続いており、18年度には、トン数ベースで初めてコンテナ貨物が車扱い貨物を上回った。
- 国内航空貨物は、増加傾向が続いており、18年度もトン数、トンキロいずれも4年連続の増加となった。18年度は、幹線貨物が減少したが、新空港の開業の効果もあり、ローカル線が大幅に増加した。

※この資料は「国土交通月例経済」（平成20年1月）の別冊資料です

国土交通省総合政策局  
情報管理部情報安全・調査課

1. 概況

平成18年度の国内総貨物輸送量は、54億3094万トン、5786億69百万トンキロで、トンベースでは対前年度比0.3%減、トンキロベースでは同1.4%増であった（表-1）。

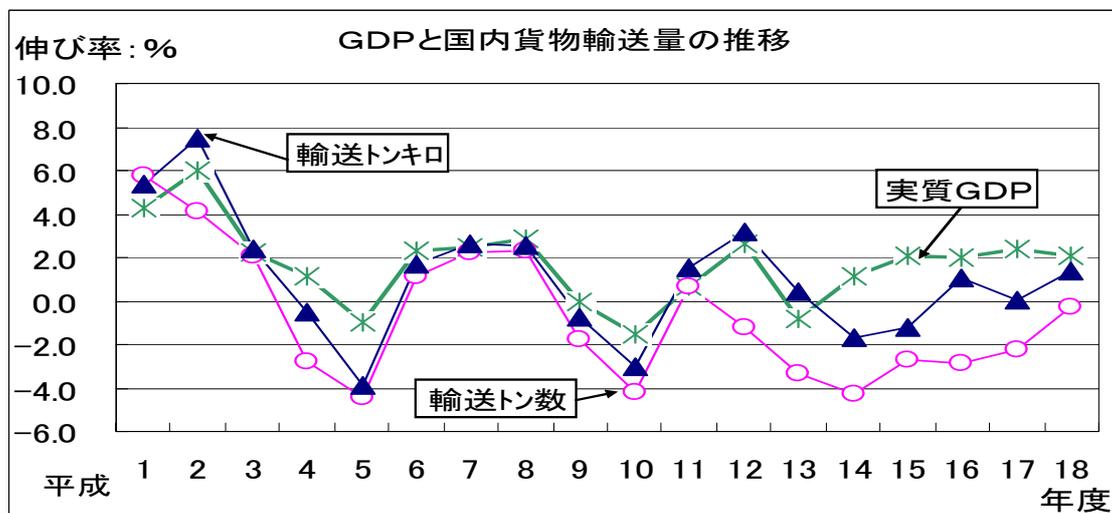
国内貨物輸送量（トンベース）は、平成3年度にピークを迎えた後、景気の動向に呼応して増減を繰り返してきたが、平成12年度以降は7年連続して減少している。一方、トンキロベースでは、短い間隔で増減を繰り返しており、16年度から3年連続の増加となった（図-1）。近年、トン数の減少とトンキロの増加が目立っており、貨物1トン当たり平均輸送距離の長距離化が一層進んでいる（参考-2.）。

（表-1）

平成18年度国内貨物輸送量

輸送機関	輸送トン数（単位:千トン）				輸送トンキロ(単位:百万トンキロ)			
	17年度	18年度	前年比(%)	シェア(%)	17年度	18年度	前年比(%)	シェア(%)
総輸送量	5,445,574	5,430,940	99.7	—	570,443	578,669	101.4	—
自動車	4,965,874	4,961,325	99.9	91.4	334,979	346,534	103.4	59.9
（うち営業用）	2,858,258	2,899,642	101.4	53.4	290,773	302,182	103.9	52.2
（うち自家用）	2,107,616	2,061,683	97.8	38.0	44,206	44,352	100.3	7.7
鉄道	52,473	51,872	98.9	1.0	22,813	23,192	101.7	4.0
（うちJR）	36,864	36,371	98.7	0.7	22,601	22,985	101.7	4.0
内航海運	426,145	416,644	97.8	7.7	211,576	207,849	98.2	35.9
航空	1,082	1,099	101.6	0.0	1,075	1,094	101.8	0.2

（図-1）



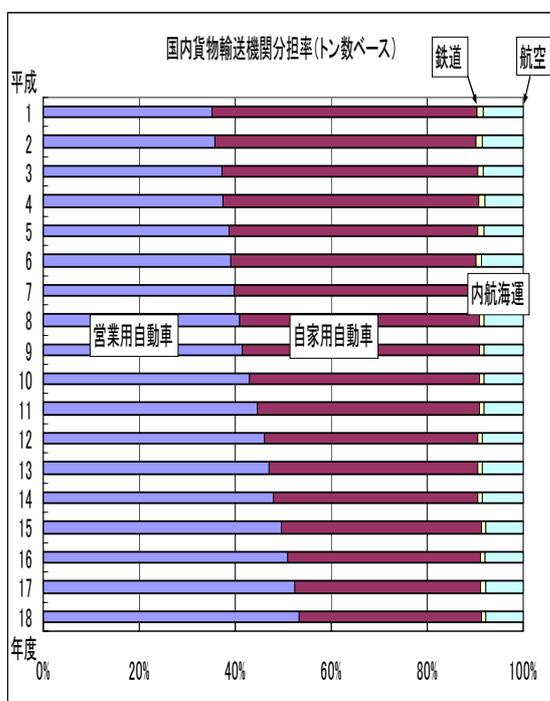
## 2. 輸送機関別分担率

平成18年度の国内貨物輸送量の輸送機関別分担率を見ると、トンベースでは自動車  
が91.4%と圧倒的なシェアを占めており、次いで内航海運(7.7%)、鉄道(1.0%)、  
航空(0.02%)となっている(表-1)。前年度からのシェアの変化を見ると、自動車  
は0.2%ポイント拡大(3年連続拡大)とシェアを伸ばし、内航海運は0.1%ポイン  
ト縮小(3年連続縮小)、鉄道と航空は同じシェアであった(参考-1.)。

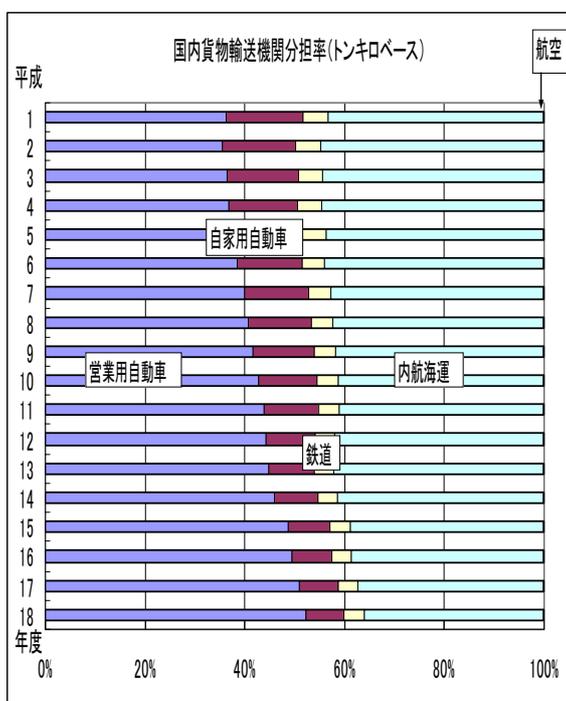
トンキロベースでは、自動車が最も大きなシェアを占めているものの、分担率は59.  
9%に止まっており、トンベースに比べ内航海運(35.9%)、鉄道(4.0%)、航空  
(0.2%)のシェアが相対的に大きくなっている。自動車は、前年度比0.2%ポイン  
ト拡大(5年連続拡大)、内航海運は前年度比0.2%ポイント縮小(5年連続縮小)、鉄  
道及び航空は前年度と同じシェアであった(図-2、図-3)。

平成元年からの輸送機関分担率の推移をみると、トンベースにおいては、自動車、鉄  
道、内航海運の相互間で分担率に大きな変化はないが、自家用自動車から営業用自動車へ  
のシフトが顕著にあらわれている。また、トンキロベースでは、トン数同様に自家用自動  
車から営業用自動車へのシフトが見られるものの、内航海運のシェア減少も近年大きくな  
ってきており、営業用、自家用を合わせた自動車輸送のシェア拡大が顕著である(図-2、  
図-3)。

(図-2)



(図-3)



### 3. 輸送機関別動向

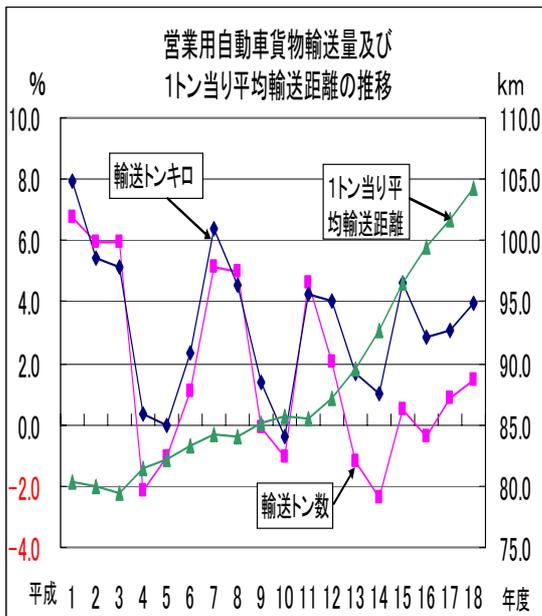
#### ①自動車

平成18年度の自動車貨物輸送量は49億6,132万トン(対前年度比0.1%減)、3,465億3千4百万トンキロ(同3.4%増)で、トン数の減少(7年連続)、トンキロの増加(4年連続)が続いている(表-1)。

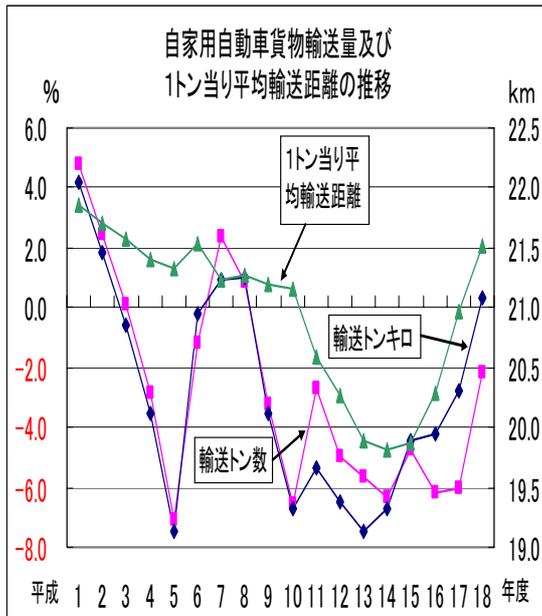
このうち営業用自動車は、29億トン(対前年度比1.4%増)、3,021億8千2百万トンキロ(同3.9%増)で、トン数は2年連続増加、トンキロは9年連続増加となっている。営業用自動車の輸送トン数、トンキロ及び貨物1トン当たり平均輸送距離の推移をみると、トンキロの伸びが常にトン数の伸びを上回る傾向にあり、特に近年その乖離が大きくなってきている。これに伴い、貨物1トン当たり平均輸送距離も長くなってきている(元年度80km→18年104km)が、特に平成12年度以降伸びが著しくなっている(図-4)。

一方、自家用自動車は、20億6千2百万トン(同2.2%減)、443億5千2百万トンキロ(同0.3%増)で、トン数は10年連続の減少、トンキロは10年振りの増加となった。自家用自動車の輸送トン数、トンキロ及び貨物1トン当たり平均輸送距離の推移をみると、平成14年度までは、トン数の伸びがトンキロを上回っていたが、15年度以降は貨物1トン当たり平均輸送距離の長距離化が著しく、逆にトンキロの伸びがトン数の伸びを上回っており、18年度には、輸送トン数は減少したが平均輸送距離の長距離化によって、トンキロが増加に転じる結果となった(図-5)。

(図-4)



(図-5)



## ②鉄道

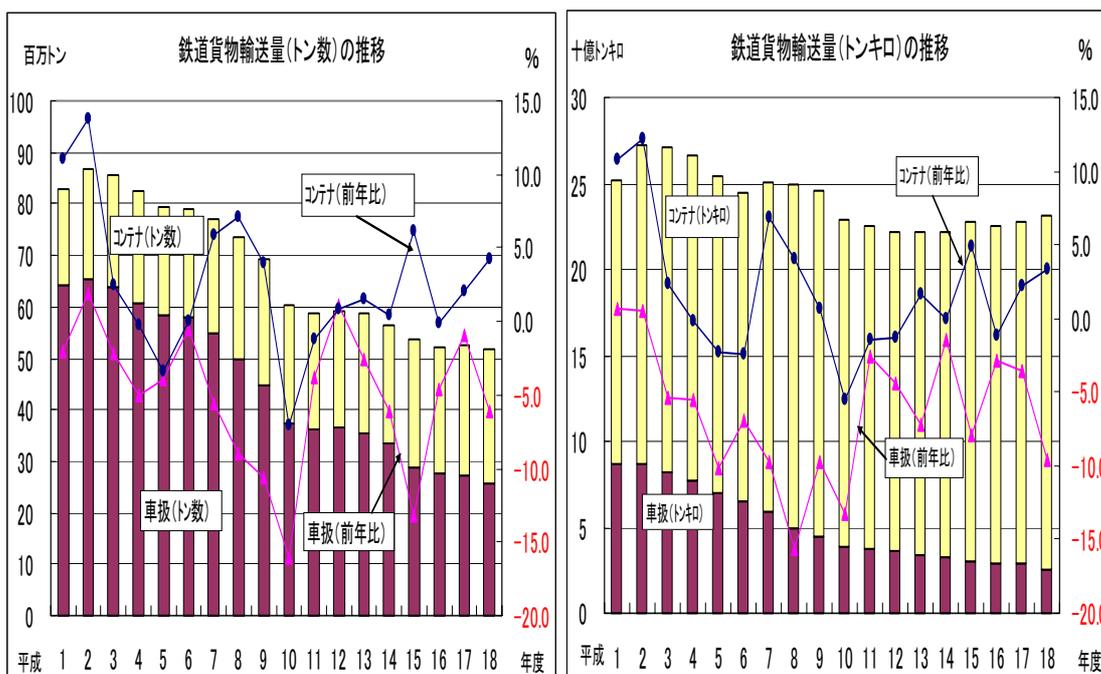
平成18年度の鉄道貨物輸送量は5,187万トン（対前年度比1.1%減）、231億9千2百万トンキロ（同1.7%増）で、トン数は前年度の増加から減少に転じ、トンキロは2年連続の増加となった（表-1）。

鉄道の輸送トン数は、長期的に減少傾向にあったが、ここ数年横這いに転じている。これを、車扱い貨物とコンテナ貨物に分けてみると、平成元年度には6,420万トンあった車扱い貨物が減少を続け、18年度には2,563万トンと元年度の約4割にまで減少した。一方、コンテナ貨物は安定して増加傾向を示しており、元年度の1,863万トンから、18年度には2,624万トンと約1.4倍に増加している。このため、元年度には車扱い貨物の3分の1にも届かなかったコンテナ貨物の輸送トン数が、18年度には初めて車扱い貨物を61万トン上回り、コンテナと車扱いの逆転が生じた（図-6）。

輸送トンキロは、トン数と同様に減少傾向にあったが、平成12年度から14年度の横這いの期間を経て、15年度以降増加傾向に転じた。車扱い貨物とコンテナ貨物に分けてみると、トンキロはトン数とは逆にコンテナ貨物のウェイトが高く、平成元年度にはコンテナ貨物が165億トンキロで、86億トンキロの車扱い貨物の約2倍の規模であったが、18年度にはコンテナ貨物が元年度の25%増の206億トンキロとなり、26億トンキロと元年度の3分の1以下となった車扱い貨物の約8倍になっている。トン数が横這いなのに対して、トンキロが増加傾向にあることから、鉄道貨物の平均輸送距離の長距離化傾向が現れている（図-7）。

（図-6）

（図-7）



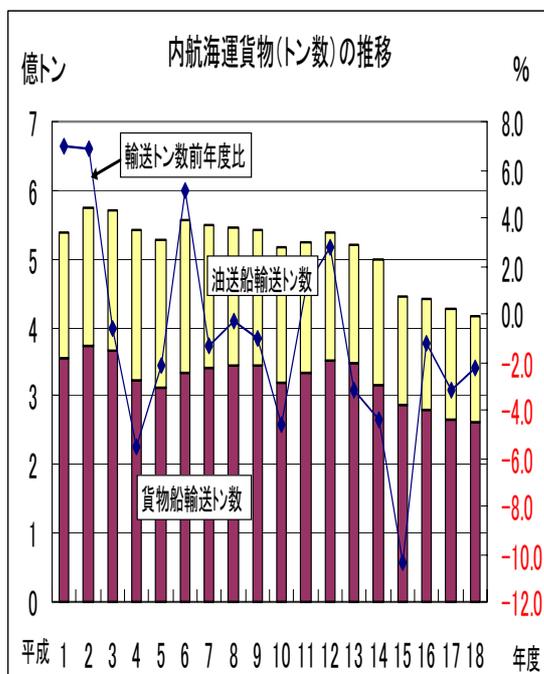
### ③内航海運

平成18年度の内航海運輸送量は、4億1,664万トン（対前年度比2.2%減）、2,078億4千9百万トンキロ（同1.8%減）であり、トン数、トンキロとも減少した（表-1）。

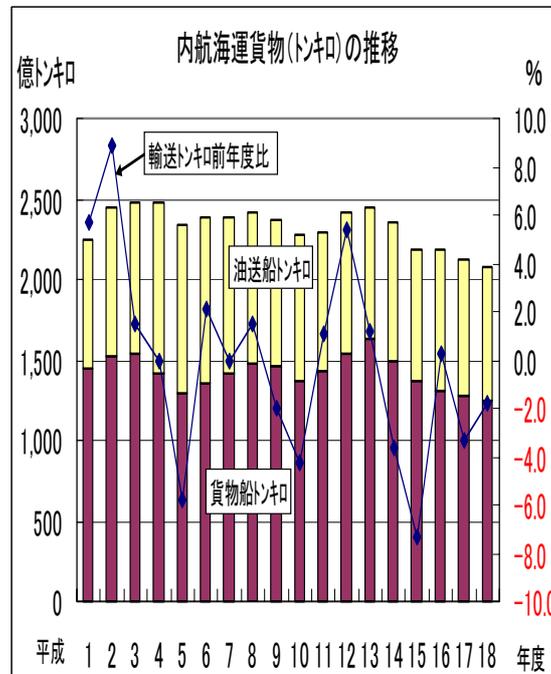
内航海運の輸送トン数は、平成13年度までは、約5億5千万トンを中心に増減を繰り返してきたが、14年度に5億トンを割り込んで以降減少を続けており、18年度には4億トン強と昭和40年代の水準に近づいている。貨物船と油送船の船種別に輸送の推移をみると、貨物船は、平成12年度まで比較的安定した輸送量で推移してきたが、13年度以降減少が続いている。一方、油送船は、平成7年度から減少に転じて以降、若干増加した年度はあったものの、減少傾向が続いている（図-8）。

輸送トンキロについても、輸送トン数と同様の推移となっているが、輸送トン数よりは緩やかな動きとなっており、特に近年は減少傾向にはあるものの、減少幅がトン数よりは小さな年度が多くなっている。これは、内航海運においても、自動車や鉄道と同様に輸送貨物1トン当たりの輸送距離が長距離化する傾向にあり、平成元年度に約420kmであった平均輸送距離は、18年度には約500kmに伸びている。この傾向は貨物船（元年度約410km→18年度約480km）より油送船（元年度約430km→18年度約530km）の方に、より顕著に見られる（図-9）。

（図-8）



（図-9）



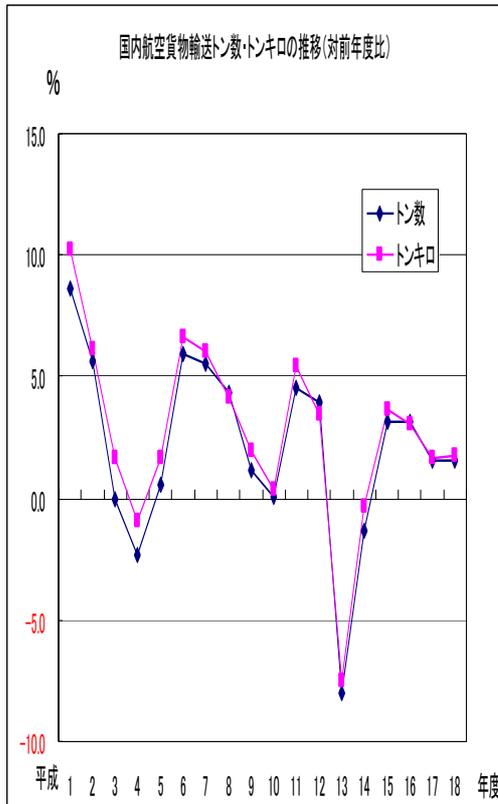
#### ④国内航空

平成18年度の国内航空貨物輸送量は、110万トン（対前年度比1.6%増）、10億9千4百万トンキロ（同1.8%増）であり、トン数、トンキロとも増加した（表-1）。

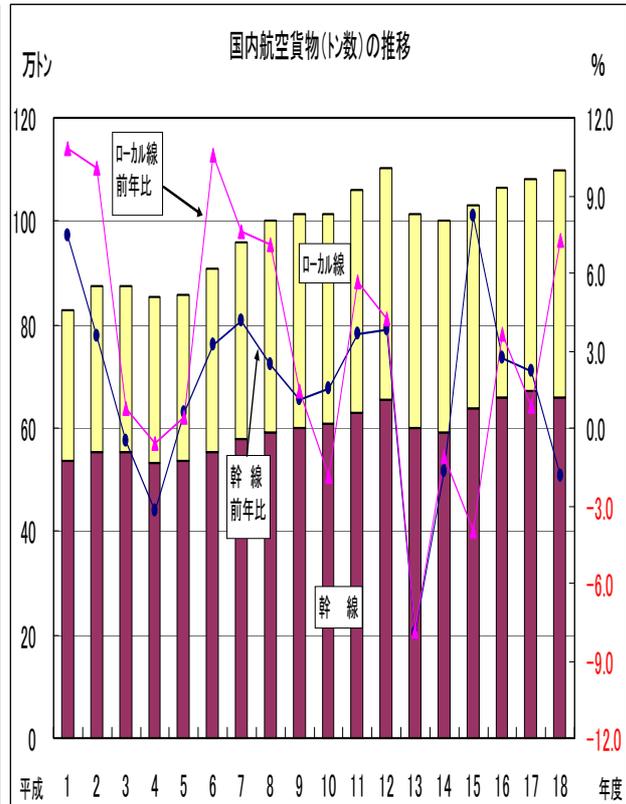
航空貨物については、輸送トン数とトンキロが全く同じ動きをしており、平成3年度まで増加が続いた後、4年度に減少したものの、以降12年度までの順調な増加の後、13・14年度と減少したが、再び増加に転じ、18年度まで4年連続の増加となった（図-10）。

幹線・ローカル線別に輸送量（トン数）の推移を見ると、いずれも増加傾向にあるものの、総じてローカル線の伸びが幹線の伸びを上回っている。これは、地方空港の整備に伴って航空貨物輸送需要が伸びていることによるとおもわれ、特に18年度は、ローカル線が大幅に増加したのに対して、幹線が減少しており、神戸空港の新規開港や北九州空港の拡張等により、幹線空港間の貨物が幹線空港と周辺ローカル空港間の輸送に転じたことが要因の一つと考えられる（図-11）。

（図-10）



（図-11）



[参考]

1. 国内貨物輸送機関分担率の推移（単位：％）

年度	輸送トン数						輸送トンキロ					
	自動車	営業用	自家用	鉄道	海運	航空	自動車	営業用	自家用	鉄道	海運	航空
平成 元	90.5	35.2	55.3	1.3	8.3	0.01	51.7	36.2	15.4	4.9	43.3	0.15
2	90.2	35.8	54.4	1.3	8.5	0.01	50.2	35.5	14.6	5.0	44.7	0.15
3	90.5	37.2	53.3	1.2	8.3	0.01	50.7	36.5	14.2	4.8	44.3	0.15
4	90.7	37.4	53.3	1.2	8.0	0.01	50.5	36.8	13.8	4.8	44.5	0.14
5	90.5	38.7	51.8	1.2	8.2	0.01	51.5	38.2	13.3	4.7	43.6	0.15
6	90.1	39.1	51.1	1.2	8.6	0.01	51.5	38.5	13.0	4.5	43.8	0.16
7	90.6	39.8	50.7	1.2	8.3	0.01	52.7	39.9	12.8	4.5	42.6	0.17
8	90.9	40.9	50.0	1.1	8.0	0.01	53.3	40.7	12.6	4.4	42.2	0.17
9	90.8	41.6	49.3	1.0	8.1	0.02	53.8	41.6	12.3	4.3	41.7	0.17
10	91.0	42.9	48.0	0.9	8.1	0.02	54.5	42.7	11.8	4.2	41.2	0.18
11	91.0	44.6	46.4	0.9	8.1	0.02	54.8	43.8	11.0	4.0	41.0	0.19
12	90.6	46.0	44.6	0.9	8.4	0.02	54.2	44.2	10.0	3.8	41.8	0.19
13	90.6	47.1	43.5	1.0	8.4	0.02	53.9	44.7	9.2	3.8	42.1	0.17
14	90.6	48.0	42.6	1.0	8.4	0.02	54.7	46.0	8.7	3.9	41.3	0.17
15	91.3	49.6	41.7	0.9	7.8	0.02	57.1	48.7	8.4	4.0	38.7	0.18
16	91.1	50.9	40.3	0.9	7.9	0.02	57.5	49.5	8.0	3.9	38.4	0.19
17	91.2	52.5	38.7	1.0	7.8	0.02	58.7	51.0	7.7	4.0	37.1	0.19
18	91.4	53.4	38.0	1.0	7.7	0.02	59.9	52.2	7.7	4.0	35.9	0.19

2. 国内輸送貨物1トン当たり平均輸送距離の推移（単位：km）

年度	総計	輸送機関別					
		自動車	営業用	自家用	鉄道	内航海運	航空
平成 元	78.2	44.6	80.4	21.9	303.5	409.0	910.5
2	80.7	44.9	80.0	21.7	314.0	425.2	914.2
3	80.9	45.3	79.4	21.6	316.9	434.0	929.1
4	82.8	46.2	81.4	21.4	323.6	458.9	941.5
5	83.3	47.4	82.2	21.3	320.9	441.6	951.1
6	84.5	48.3	83.3	21.5	310.2	429.2	957.1
7	84.1	49.0	84.3	21.2	326.3	434.5	962.5
8	84.3	49.5	83.9	21.3	339.4	442.0	960.1
9	85.2	50.5	85.2	21.2	355.6	437.8	967.5
10	86.2	51.7	85.8	21.2	379.7	439.3	970.4
11	86.9	52.4	85.5	20.6	384.1	439.0	979.3
12	90.7	54.2	87.1	20.3	373.5	450.0	974.6
13	94.3	56.1	89.6	19.9	378.3	470.0	979.3
14	96.8	58.4	92.7	19.8	391.1	473.8	990.0
15	98.3	61.5	96.5	19.9	425.2	489.7	994.2
16	102.3	64.5	99.6	20.3	430.4	497.1	993.4
17	104.8	67.5	101.7	21.0	434.8	496.5	993.5
18	106.6	69.8	104.2	21.5	447.1	498.9	995.5

品目別国内貨物輸送量

(単位：千トン)

品目	17年度輸送トン数				18年度輸送トン数			
	合計	自動車	鉄道(JR)	内航海運	合計	自動車	鉄道(JR)	内航海運
合計	5 428 883	4 965 874	36 864	426 145	5 414 340	4 961 325	36 371	416 644
穀物	47 896	44 306	0	3 590	49 092	45 521	0	3 571
野菜・果物	83 669	83 651	0	18	84 670	84 662	0	8
その他の農産品	42 141	42 101	0	40	25 202	25 158	0	44
畜産品	44 007	44 001	0	6	37 838	37 830	0	8
水産品	41 262	41 261	0	1	37 416	37 416	0	0
木材	177 272	170 581	102	6 585	159 114	154 938	125	4 051
薪炭	1 293	1 292	0	1	1 870	1 866	0	4
石炭	20 936	10 368	220	9 193	26 783	17 219	224	9 340
石属	2 688	1 117	173	1 237	3 069	1 742	190	1 137
砂利・砂・石材	759 424	727 037	715	24 155	685 382	660 261	14	25 107
非金属鉱物(工業用)	265 034	183 213	0	81 650	250 807	172 034	749	78 024
金属製	212 738	165 010	38	47 681	207 561	155 801	42	51 718
機械	89 106	87 425	0	1 585	103 938	102 570	0	1 368
機械	454 674	445 008	1 353	8 132	472 124	462 326	10	9 788
セメント	91 183	45 466	1 274	42 372	88 031	43 904	877	43 250
その他の薬品	266 369	264 586	0	1 505	307 746	306 051	0	1 695
石油製品	291 650	172 724	9 482	105 828	292 518	179 056	8 611	104 851
コークス・その他	12 925	7 644	0	5 281	8 955	2 894	0	6 061
の石炭製品	60 711	39 622	549	20 143	73 848	54 396	582	18 870
化学薬品	1 945	923	0	1 022	2 049	1 013	0	1 036
化学肥料	126 989	124 454	4	2 087	106 008	104 230	1	1 777
染料・塗料その他の化学工業品	124 305	119 915	481	3 699	123 184	119 010	363	3 811
紙・パルプ	20 439	20 432	0	7	15 612	15 612	0	0
繊維工業品	454 690	453 419	0	1 271	422 614	421 077	0	1 537
食料工業品	294 410	294 404	0	2	282 581	282 580	0	1
日用品	97 495	75 832	7	21 656	104 628	83 327	7	21 294
ゴム製品・木製品・その他の製造工業品	1 360 213	1 300 162	22 467	37 396	1 441 646	1 388 775	24 575	28 296
特種品・その他								

大分類

(単位：千トン)

品目	17年度輸送トン数				18年度輸送トン数			
	合計	自動車	鉄道(JR)	内航海運	合計	自動車	鉄道(JR)	内航海運
合計	5,428,883	4,965,874	36,864	426,145	5,414,340	4,961,325	36,371	416,644
農水産品	258,975	255,320	0	3,655	234,218	230,587	0	3,631
林産品	178,565	171,873	102	6,586	160,984	156,804	125	4,055
鉱産品	1,048,082	921,735	1,108	116,235	966,041	851,256	1,177	113,608
金属機械工業品	756,518	697,443	1,391	57,398	783,623	720,697	52	62,874
化学工業品	851,772	655,419	11,309	178,238	879,155	691,544	10,071	177,540
軽工業品	599,434	593,766	481	4,977	561,410	555,699	363	5,348
雑工業品	391,905	370,236	7	21,658	387,209	365,907	7	21,295
特種品・その他	1,360,213	1,300,162	22,467	37,396	1,441,646	1,388,775	24,575	28,296